

Bun voya!

越前市文化センターだより

Vol.7 2020-21.Winter



文化センターの「つぶやき」ならぬ「ぼやき」で文化センターへの旅を...

あなたに聞きたい!



田中みゆきさん

今回は高校までを越前市(旧武生市)で過ごし、現在は東京都渋谷公園通りギャラリー学芸員として勤務する。かたわら、越前市文化センターで上映予定の映画『ナイトクルージング』など様々なプロジェクトで活躍されている田中みゆきさんにお話を聞きました。

文化センター(以下文)：子供時代は文化センターのご近所にお住まいだったそうですが、当館に来られる機会はありませんか？
田中みゆきさん(以下田)：そうですね、音楽は何らかの形でずっとやっていたので、中学校や武生東高校の頃は、合唱部の発表やヴァイオリンの発表会などで文化センターはよく利用しましたね。
文：ご利用ありがとうございます(笑)。高校卒業後はずっと県外にいらつしやったんですか？
田：はい、あとは海外にも行っていました。
文：すごい！どの国に行かれてたんですか？
田：大学時代にアメリカの大学に行っていました。後は、社会人になった後にロンドンに行つてデザインミュージアムのデザインキュレーション修士号を取得しました。(注)キュレーションとは、情報を選んで整理し、主に展示会という形にして伝える活動。近年は博物館や図書館などで展示の企画・運営を行う「キュレーター」という役割が注目を集めている)

路じやないですか！
田：実は国際科ではなく普通科だったんですが、高校時代には1ヶ月弱ほどアメリカに交換留学をしたり、替わりに実家にホームステイに来てもらったりしていました。そういう経験は大きかったですかもしないですか？
文：武生へはよく帰省されてますか？
田：はい、定期的に帰省しています。高校までに体験できることって情報・お金の面でも限られていたもので、武生を離れてみて改めて和紙とか漆器とか、日本の伝統工芸が生まれている場所なんだと感じています。帰省した時には漆製品を買ったりしています。東京の三宅一生がディレクターのギャラリーに勤めていた時に、越前和紙の技術が高く評価されていることも知って驚きましたね。
文：デザインのお仕事から、現在のような障がいとアートをテーマに活動されるようになったきっかけは何ですか？
田：デザイン会社にいた時に、「未来の(人間の身体を代替する)骨」としての義足の展示や、義足のアシートの方と一緒に仕事をしていたのが最初ですね。それから、実験的なアート企画を数多く開催している山口情報芸術センター(SIC)で勤務したことも、非常に大きな経験になっています。今回の映画『ナイトクルージング』の主演である加藤秀幸さんとは、2016年に目が見えない人とダンスを創る企画の出演者を探していた時に、たまたま今回の映画の監督である佐々木誠さんに出会い、加藤さんを紹介してもらいました。そこで二人が映画を作ろうとしていたことを知って、「じゃあ実際に作ってみませんか？」と誘ったのが、この映画の発端です。
文：私が映画の中で一番印象に残っている事なんですけど、加藤さんたちは1970年代のSFの特撮を思い出させるちよつと古めかしい撮影方法からCG(コンピュータグラフィックス)等の最新技術まで、新旧様々な方法を駆使して映画を作っていますよね。このようなアイデアはどのように生まれてきたんですか？
田：佐々木監督と話し合つて、加藤さんの思い描いているイメージを一つのチームで再現するというのは難しいのではないかと、という話に

なりました。そこで、佐々木さんが一緒に作りたいと考えていた映画関係のスタッフと、私が普段仕事をしているアーティストやゲーム会社の方々など、さまざまな分野の人たちが専門性を持ち寄って具体化するという事になりました。特にアートの視点を取り入れることで、作り方から常識にとられないことができるかと考えました。
文：なるほど、異なる業界にいた田中さんからこそ、見えてくる部分があるんですね。
田：佐々木さんとは「いろんな人が加藤さんとコミュニケーションをとりながら、ひとつの映画を表現するにもさまざまな方法がある」ということを見せるのが面白いんじゃないか？という話も話しました。見えない人と映画をつくる機会はなかなかないので、いろんな方が興味を持って手伝ってくれましたし、私たちも加藤さんたちと一緒にそれらの人との話の中で、絵や写真など平面で表現することの特殊さや、視覚がない世界とはどういうものかということを学んでいきました。
文：さまざまなツールの助けを借りながら、加藤さんと様々な専門家とが意思疎通をしようとする努力奮闘しているシーンも、この映画の見どころのひとつですね。
田：見えない人と一緒にいて面白いのは、見えていると当たり前だから口に出さないことを、見えない相手に伝えるために言語化するんですよね。それを通して、それぞれが物事をどう見ているかが明らかに。それが見えない人に伝わったり伝わらなかつたりするのも面白い点です。本当に加藤さんが捉えている世界を表現しようと思つたら三次元の空間が必要になりますが、映画という二次元の表現手段にすることで、より多くの人に見てもらおうとすることができ、見える人と見えない人が共通の話題にできるものになったと思います。

文：加藤さんの映画作りとその成果が一体どのようなものになったのか気になる皆さん、2021年1月23日に文化センターにてお確かめください！最後に、田中さんが現在取り組んでいるプロジェクトについても教えてください。
田：現在はある意味逆のことをやっています。耳が聴こえない人と視覚言語の可能性を追求した演劇を創ろうとしています。あと、「オーディオゲームセンター」という完全に音だけで遊ぶゲームの制作にも2017年から取り組んでいて、2021年にまとまて体験できるゲームセンターを作ります。
文：どちらも非常に興味深いですね！映画『ナイトクルージング』でのトークイベントも楽しみにしています。どうかよろしくお願いたします！

『ナイトクルージング』はこんな映画！

○あらすじ○ 生まれつき視覚がなく、光を感じたことのない加藤秀幸が、ある日、映画を作ることを決意。加藤はSF短編映画『ゴーストヴィジョン』を制作するさまざまな過程を通して、顔や色の実体、2Dで表現することなど、視覚から見た世界を知っていく。同時に、映画制作に携わるスタッフたちも、加藤を通して視覚のない世界に触れていく。彼らの共同作業の先に待つものとは—

○観どころ○

- ・見える佐々木監督と見えない加藤監督のコンビによるアツい映画製作物語
- ・全盲者がみる世界を実現するために駆使される、ハイテクからローテクまでの多彩な技術
- ・有名声優の山寺宏一、能登麻美子を始めとする豪華出演陣

詳しくは裏面で！



映画上映会「ナイトクルージング」と

プロデューサー田中みゆき氏トーク

ナイトクルージング NIGHT CRUISING

日 時：2021年1月23日（土）13時～、18時～（2回公演）

会 場：越前市文化センター 小ホール

入場料：一般1,000円 友の会800円 大学生以下・障がい者500円※

※チケット購入時に学生証または障がい者手帳をご提示ください。

生まれながらにして視覚がなく、光すら感じたことのない全盲の加藤秀幸は、ある日映画を作ることを決める。加藤は、映画制作におけるさまざまな過程を通して、顔や色の実体、2Dで表現することなど、視覚から見た世界を知っていく。また、加藤と共に製作する見えるスタッフも、加藤を通して視覚のない世界を垣間見る。見えない加藤と見えるスタッフ、それぞれが互いの頭の中にある「イメージ」を想像しながら、映画がつけられていく。

特別企画

各上映の終了後、本映画のプロデューサーで越前市出身の田中みゆきさんを交えて、対話形式のトークイベントを行います。
①15:40～②20:40～
(各回30分程度)



見えない監督の映画に、あなたは何を“観る”か？
生まれながらの全盲者の映画制作を追うドキュメンタリー

※いずれの公演も前売りで完売の場合、当日券の販売はありません。ご了承ください。



受付

第14回文化センター寄席上方落語会

日 時：2021年2月11日（木・祝）14時開演

会 場：越前市文化センター

出 演：桂米二・桂米紫・桂佐ん吉・桂鞠輔

入場料：一般1,500円 友の会1,300円 大学生以下500円

毎年恒例の上方落語会！今回も米朝一門より4名の噺家が登場します。

笑うことで免疫力アップ！笑って寒さも吹き飛ばしましょう！



宝くじおしゃべり音楽館～思い出のスクリーンミュージック～

日 時：2021年3月13日（土）14時開演

会 場：越前市文化センター 大ホール

出 演：春風亭小朝・島田歌穂・小原孝ほか

入場料：一般2,500円 高校生以下1,500円（当日券はそれぞれ500円増し）

※4歳以上のお子様からご入場いただけます。

※宝くじの助成により、特別料金となっております。

チケット発売：2021年1月16日（土）より一斉発売

プレイガイド：越前市文化センター、越前市いまだて芸術館

春風亭小朝さんの司会、小原孝さんのピアノ、島田歌穂さんの歌、おしゃべり音楽館ポップスオーケストラの演奏により、愉快なお話を交え、映画音楽の名曲をお楽しみ頂けるコンサートです。

小原さんの弾き語りコーナーや、小朝さんのトークコーナーにもご期待ください。



宝くじおしゃべり音楽館

思い出のスクリーンミュージック

4歳以上の児童も入場可

出演者：春風亭小朝、島田歌穂、小原孝

主催：おしゃべり音楽館 ポップスオーケストラ

クラシックから歌謡曲まで表現豊かな指揮 指揮 藤野浩一

子定曲目：
 ◆ニュー・シネマ・パラダイス ◆崖っぷち愛 ◆恋のワルツ ◆レ・ミゼラブル (Enchanted)
 ◆風と雲と虹との下 (1999年) ◆サウンド・オブ・ミュージック (1965)
 (春風亭小朝の弾き語りコーナー・小原孝さんの弾き語りコーナーも必ず見逃さない)

新型コロナウイルス感染症拡大予防のために…

- ・チケットにご連絡先記入欄がございますので、来場される方のご連絡先の記入をお願いいたします。
- ・公演当日、発熱、咳、咽の痛みなどの症状があるお客様は入館をお控えください。・入場時に非接触式体温計にて検温いたします。
- ・館内ではマスクの常時着用をお願いいたします。・館内入り口設置の消毒用アルコールでの手指の消毒にご協力をお願いいたします。
- ・ひざ掛けの貸し出しは行いません。必要な方は、ご自身でご用意ください。感染症拡大防止のため、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

越前市文化センタージュニア合唱団

このとり日記



10月よりようやく練習を始めることができました。

今年はなんと！新入団員を5人迎えました。

今は感染症対策のためマスク着用をしながら距離をとっての練習ですが、みんなで歌えることがうれしいです。

今年はいつものようなステージ発表会ではありませんが、小さなクリスマス発表会を予定しているので、グループごとに練習をしています。



このとりでしか会えない友達がたくさんいるので、毎週の練習が楽しみです。もっとみんなと歌えるといいな！

*ジュニア合唱団このとりでは随時団員を募集しています。見学も可能です。お気軽に越前市文化センターまでお問合せください。



現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、アンケートの回収を取りやめております。ご意見、リクエスト等ございましたら越前市文化センターまでお気軽にご連絡ください。

※越前市文化センター事業の案内は、ホームページに掲載しています。

<http://www.jigyodan-city-echizen.jp/bunka>

※Bunvoja!掲載の全ての講座・催しについては越前市文化センターまでお問合せください。

＜発行・編集＞2020年12月 越前市文化センター 越前市高瀬2丁目3-3 TEL:0778-23-5057 FAX:0778-21-1975

Bunvoja!は越前和紙を使用しています